

スポーツで社会貢献

環境対策や 地域活性化 大学生が政策提言

日本のスポーツ政策などに問題意識を持つ大学生による政策提言発表大会「Sport Policy for Japan2018」が27日、神奈川県横浜キャンパス（横浜市神奈川区）で始まった。全国の23大学、約280人が集まり、スポーツを通じた健康づくりや社会問題の解決策などを提案した。毎川スポーツ財団と神奈川大の主催。

（尹 貴淑）

大会は、スポーツ界に寄与する人材の育成などを目的に毎年開かれている。今年には56チームが参加し、スポーツを活用した環境対策や地域活性化、障害者スポーツの振興などをテーマに政策提言を持ち寄って発表し、意見交換した。

神奈川大大竹ゼミチーム

Jは、スポーツ界と性的少数者（LGBTなど）の関

係について発表した。「競

技性を問うスポーツ界では、男女を区別する固定概念が深く根付いている」

などといううえで、運動部の顧問や指導者向けの研修実

施や性的少数者の競技者を

支援する組織の創設などを

提案。「スポーツの力で理

解や支援をつなげ、社会の

意識を変えることにつな

ぐ」とまとめた。

東海大学大津ゼミのチー

ムは、車通勤を徒歩に変え

ることで、地球温暖化の改

善につなげる案を提言し

た。30～50代の人に振動で

ることで、地球温暖化の改善につなげる案を提言した。30～50代の人に振動で



会場では大学生がスポーツをテーマにしたさまざまな政策提言を発表した。＝横浜市神奈川区

発電する電池を勤務先から提供。ウォーキングによる運動効果と、蓄電を通して環境を意識するきっかけにもなるとし、「環境問題の一助としての『ながら発電』をアピールした。

各提言は専門家が審査

し、6チームが28日に同会

場で開かれる決勝プレゼン

テーションに出場する。